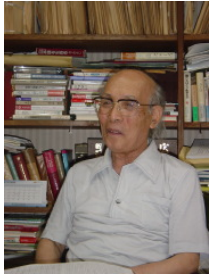


教育を問い続ける94歳の日々①

NHKラジオ深夜便
明日へのことば
2012・9・25 26



大田 堯(おおた たかし、1918年-)日本の教育学者。東京大学名誉教授、都留文科大学名誉教授。日本子どもを守る会名誉会長。

東京帝国大学文学部教育学科卒業。東京大学教育学部・大学院教育学研究科教授、日本子どもを守る会会長、都留文科大学学長、日本教育学会会長などを歴任。専攻は教育学、教育史、教育哲学。戦後の日本を代表する教育学者として著名である。2011年に大田を主人公としたドキュメンタリー映画「かすかな光へ」が公開され、再びその活動が注目されている。最近では講演・執筆など多忙だが、その中で故郷の広島県本郷町の「ほんごう子ども図書館」の設立に尽力。長年の研究者としての実績とあわせて、同町から名誉町民の表彰を受けている。

2012年9月現在、94歳

戦前、戦後の両方の教育を経験しているかす少ない人の一人。現在94歳、人間の生存にとって偶然が意味を持っている。66歳までは学長をしていて規則正しい動きが出来なかったが、66歳以降、規則正しい生活をしている。日々の散歩、掃除、体操、仕事・・・人の付き合いが生き続けることに大切。現在4種類のサークルをもっているがこれが楽しみ。顔と顔を合わせて。色々な人がいる。

散歩の時でも、初めての人には「ワンちゃん、おはよう！」なんて人ではなく犬からアプローチしている。学校の先生方、中小企業の方々から色々学んでいる。

93歳の時、教育の夢を描いた映画「かすかな光へ」に出演した。2006年の教育基本法の改正がきっかけで・・・

良い教育とはなんなのか？

映画の森監督は映画製作の段階で挫折、5年かかった。

背骨が必要で、背骨になってくれと依頼された。

一研究者の夢の内容を世間に訴えるのが目的の映画。

何度も映画をみるリピーターがいたり、嬉しい反響があった。

戦後すぐの曙には強い印象があった。1945年から1959年頃。朝鮮戦争ぐらいからガラッと変わった。4年間軍隊経験(国内2年、南太平洋2年)第二乙種補充兵だった。日本の軍隊はいつも戦闘状態。上下関係がかたく個人の自由は最小限(トイレと寝る時)。あるとき船が遭難してゼロから生活を立ち上げた経験をしたが農業兵、漁業兵は皆 たくましかった。そこで自分のひ弱さを実感した。

教育は命と言う観点から見ないといけない。復員後、従来
の国家中心ではなく命を大切に教育の仕事をした。
命の特色は、それぞれが個性(設計図)を持っている。その
個性(設計図)は外からの情報で変わっていく。設計図は
柔軟なのだ。教育は共に育つ・・・の方向が大切。

教科書は参考書としてつかってくれ！・・・という時代もあった。
埼玉で共同学習をしている。自分を変えるために青年学級にも参加。
不良と言われる人々をしゃべらせ、その記録をとった。
自分たちが言ったことが記録に残るということで、学校では考
えられないこと。自分を取り戻すチャンスになった。共に育つ
教育が必要。

「教育は命と命が響きあうもの。教育はアート。中味が大切！」

映画では、はらべこ青虫がさなぎからチョウになる。人間も同
じように社会・文化の胎盤の中で育つ。
人間の歴史の授業中に、「人間はなんで2本の足で歩くようにな
ったのか？」の質問があった。色々調べたがハッキリしな
かった。「人間がその気になった！」「2本足を選択し、この道
でいこう！・・・と運命を決めた」と答えた。

教育と言うとすぐ学校がでてくるが、学校はほんの一
部。赤ちゃんのときから人間形成が始まる。学校だけが
人間形成の場、の感覚がおかしい。良い人間を作って社
会をかえるのが教育と言うのは尊大。無理がある・・・と感
ずる。今、現実の教育を見直している。

1986年に韓国に行った時、日本教育学会の会長として
朝鮮半島の人々にお詫びをした。日本名に変えろ、日本
語を使え、神社を敬え・・・人の心の内面まで入り日本人
になることを強制した。そこをお詫びした。植民地だけで
はなく、国内でも教育勅語に同盟するよう動いていた。

上から人々の心を束にして、国益に沿うようにそだてよ
うとするやり方はいまだ続いている。これが日本の教育
観。1945年で過去を清算していない。積み残している。
日本の先生には上下関係の使役動詞が多い(すわりな
さい、かきなさい)、外国では対等でWould you like?
親も子供を自分の思い通りにさせようとする。親と子は
違う。DNAが違う。同化政策はダメ。
命の特性が認識されていない。皆 違う！ひとりひとり
かけがえのない人。同じように束ねようとしてはいけない。

人の未来は予測できない位可能性を一杯持っている。
人権は法律に書いてあるものではなく自然の摂理。
動物(人間)はすべて自分中心。まず自分の命が一番。
しかし、外の力(空気、水など)に依存しないでは生きて
いけない。

人間は情報を得て生きている。必要なものは脳に残り、
いらぬものは忘れる。脳の新陳代謝が学習。
学習を止めた時が脳死。教育が先にあるのではなく学
習が先にある。学習を助けるのが教育。先生は演出家
でアーチスト。日本ではあまりにも学校を重視すぎる。
人間はある本、ある人に・・・大きな刺激をうけるものだ。
学校だけでなく教育を広く考える必要がある。

故郷広島本郷町にログハウスの子供達が寛げる図書館
を作った。公設民営図書館で読み語り(聞かせではな
い)もしている。今は自然の大地の上での子供の遊びが
ない。自然の生き物と驚きを共有する機会が少なすぎる。
埼玉の自宅の近くで、「フィールドミュージアム」づくりを
提案している。1260ヘクタールの広大な見沼田圃がある。
斜面林が虫食い状態・・・斜面林に廃棄物をすてない！
学校で見沼講座を設け、2年続いている。

今の時代、金・物で人間が分断されすぎている。命が
金・物の二の次にされている。命を大切に頭が少な
い。命のために金を使うのなら良い。

命を中心にした社会作りが夢。夢に始まり夢に終る！。